



26 舞楽蒔絵棚

八代西村彦兵衛(象彦)

一基

昭和三年(一九二八) 蒔絵、彫金
四六・二×二二〇・八×一二三・〇

昭和三年の即位の礼に際し、奉祝の品として三井家から献上された大型の蒔絵棚。『源氏物語』より「紅葉賀」や「胡蝶」などの帖から、舞楽や龍頭鶴首の舟で雅楽を演奏する場面が棚板や引き戸に表されている。棚の下段引き戸の図様は、狩野養信(一七九六〜一八四六)によって描かれた『源氏物語図屏風』(重要文化財、高松市・法然寺蔵)を典拠としていることが、これまでに指摘されている。下段左の引き戸は、『源氏物語図屏風』左隻から光源氏と頭中将が青海波を舞う場面が引用され、下段右の引き戸には同じく右隻から若菜の場面の一部分が転用されている。このように古画を引用しながらも図様を巧みに立体の棚の上に再構成し、さまざまな蒔絵技法を駆使するとともに、孔雀石や彫金部材の象嵌を多くの箇所配しており、装飾性の際立つ蒔絵棚である。框座底裏に「平安象彦謹製(印)」の蒔絵銘があり、京都の漆器商西村彦兵衛商店(屋号・象彦)の制作による。当時の当主、八代西村彦兵衛は(一八八七〜一九六五)は、蒔絵技法の研究を重ねて内国勸業博覧会、万国博覧会など内外の展覧会にも積極的に出品し、宮内省の御用のほか、三井家、住友家の御用を受け、象彦を大きく発展させた。大正十五年には蒔絵学校を設立、後継者の育成にも努めた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzokan